

参加申込み者のコメント集

—— 今回の開催(中部電力からの情報提供)について、どのようなことを期待しますか？ ——

- 1. 原子力よりエネルギー効率がよく、安全・安心でローコストな電力源は何か。
- 2. 原子力に変わるどんなエネルギーで電力を供給する覚悟があるか？実現のための工程を提示できますか？株主の立場でも要望します。
- 3. ひとことで言えば「よろしくお願いします！」です。
中部電力さんも、協働の「いちプレイヤー」としてご参加いただけると思うので、その意思を大いに尊重して、がんばってくださる姿勢を応援したいと思います。
細かく言うならば、正しい情報を、予断なく、わかりやすく提供していただきたいです。今後、市民が、ほかの市民に伝える時に使える資料が欲しいですね。

大本営発表なら要りません。

「会社に不利な情報だから、これは加えないでおこう」という作為が入る情報なら要りません。

膨大な量で市民を煙に巻く資料なら要りません。

ポイントを押えた内容で、かつ、市民が今後自主的に深く研究したいなと思ったときには、その糸口がみえる資料だとありがたいですね。巻末でかまわないので、出典がついていると芋づる式に研究ができると思います。

どうぞご配慮ください。よろしくお願いします。

- 4. コストは考えないで、休眠発電所をすべて稼働させた場合の発電供給力は？その場合のコストアップは？
- 5. 「大飯」を始めとする原発再稼働是非について議論したい。
- 6. 政府や電力会社の前のめりな姿勢と、反原発運動がますます「まさに運動的？」になっていることに危惧の念を抱えています。
事故を起したことの責任、放射能の危険性は、いくら言われても当然かも知れませんが、しかし、電気は「空気」「水」に次ぐ今や人間や産業にとって欠かせないものです。その電気は、電力会社全体では30%、関西電力に限れば50%近くが「原子力発電」で賄われてきたのです。それが全部止まることの重大さは、程度の差こそあれ、共通認識として持つことが、冷静な議論の前提ではないでしょうか。エネルギー問題としての議論があまりにもなされていないと思います。

多くの情報が、マスメディアなどを通じて流されていますが、ややもすると読者、視聴者向けのもが多く、根本的な問題であるエネルギー問題としての採り上げ方が少ないと思います。今や、電力会社（政府も）が何を言っても信じられない状況の中、本当に電力会社の主張も聞いてみる必要があり、今回の機

会はまことに時宜を得たものだと思います。

関西電力をめぐる今夏の電力問題について、大きく議論が分かれていることの原因の一つは、「責任」の違いです。供給責任者として、関電は「絶対に供給力不足による大停電を起さない」（電力各社とも従来からその考え方で供給力対策を行ってきたし、今後もそうでしょう）という前提で供給力の計画を立てます。よく言われる批判に「もっと自家発に頼れ」「もっと他電力から電力を融通してもらえばよい」ということがあります。それは、望ましいことであり、可能な範囲では、やるべきでしょうし、結果的には出来るかもしれません。しかし、「絶対の供給責任」を負う立場として、それを当てにして供給計画を立てることはできない。その結果、「そうしたものを隠して、停電を脅しに原発の再稼動をもくろんでいる。」という非難が起こる隙を作っていますが、私は、当事者としての立場を考えると、やむを得ないとも思います。

また、これは私の想像ですが、「経営責任者」としては、「揚水発電」をフルに計上することは、「もし、渴水になれば困る」という懸念もさることながら、揚水発電を最大限やることによる莫大な燃料費増も懸念していると思います。夜間に下池から上池へ水をくみ上げることは、大変効率が悪く大量の電気を喰うことです。くみ上げた水で得られる電気は、そのくみ上げに使われる電力よりも何割か割高の電気になります。今まではそのくみ上げに使う電力は、「原子力」でした。原発の燃料費はおそらく2円程度/kWhだと思いますが、原発のない場合、「火力発電」の電気でのくみ上げをすれば、kWhあたりその何倍もの単価となり、燃料費は、膨大なものとなります。「命がかかっているのに、金の話か」との批判が出そうですが、経営にとっては、膨大な支出増は死活問題です。まして、料金値上げは言うだけで指弾を受けてしまう状況では。

今回の中電からの説明は、メディアなどを通じてではなく、その主張を直接聞けるという大変貴重な機会です。中電は最近の発表で今夏の供給余力を「原発なしで4%」と発表しました。従来から、安定供給のためには、「8%の供給余力」が必要と言われてきたことからすると万全とは言えません。しかし、関電に比べると「原発なしでいけそうだ。」という状況で、その分冷静な説明ができそうです。

中電への注文は「聞いていただく専門家ではない市民の方にも判る言葉や、言い回しを心がけて欲しい。」ということです。一方、聞く市民の側も、取りあえずは「原発稼動せず」を頭において、「まず冷静に電力会社の主張を聴く」ことを心がけて欲しいと思います。今回は、両者にとって争いの場ではなく、お互いの主張に対する理解を深める場になると良いと思います。

■ 7. 下記の3点に対するコメント、説明を期待します。

- ① 今回の日本の再生可能エネルギーの買取制度 (FIT) に関する評価、今後危惧されること (諸学国特に先進国ドイツの現状を踏まえて)
- ② 自前で分散型電源、自然エネルギー発電所 (バイオマス、小水力、地熱等) を積極展開する計画はあるのか
- ③ 「脱原発」の世間の風潮の中で電力会社経営における今後の「原子力発電」の位置づけ

- 8. 現在の発電形式以外の発電方法について、どのような取り組みがなされているのかを知りたいと思います。
- 9. 原発なしでどうやってエネルギーを確保するのか？ その方策と問題点を知りたい。
- 10. 感情的な議論ではなく、冷静な事実とデータに基づいた議論をして結論を出していきたい。
- 11. 中部電力(株) の言分
 - ・「絶対安全はない」が世間の通説ですがどういう条件(複合) の時に危険か論理的・定量的な説明と論拠
(反対の立場のプラント設計者の反論に耐えるの)
 - ・脱原発にカジをきったドイツでは倫理的な理由からだったと言われているがそういった考え方に対する中電の考え方を知りたい
- 12. 地震や津波等により破壊された原発の場合、その破損不具合モードは複雑怪奇なものとなる。そのような場合、通常のトラブルシューティングマニュアル、現場とはなれた中央での識者の一般論では余り役立たないことが予想される。そのような状況下で短時間に状況判断し、最善の対策を打てるか、或いは提案出来るかは現場の計測制御システム(ハード、ソフト共)、配管系統、電源系統等 いちいち図面等見なくても精通されている現場の技術者しかいない。原発の非常事態の場合短時間での判断、処置がもとめられる為、図面等見ている余裕は無いと思われる。古い原発の場合、はたしてような技術者はいるのだろうか？
- 13. ・経済産業省「次世代エネルギー・社会システム協議会」での議論についてどう思われますか。
 - ・経済産業省「スマートシティの実証事業」に参加する横浜市、豊田市、京都府の 3 自治体、北九州市の 4 地域での実証実験で注目しているものはありますか。また、北九州市が電力会社を外した形で新エネルギーの開発を進めていることについてどう思われますか。
 - ・欧米のエネルギー政策で注目している国はありますか。
 - ・東電追随型のエネルギー政策から地域独自のエネルギー政策を持つチャンスだと思うのですが、中部電力として東電や国に先んじてエネルギー政策案を作成・発表してはどうでしょう。
 - ・ウォークマン、i モード、iPad は技術者の発想でできた商品ではありません。一般人の感覚で「こんなものができたらいいな」と言ったところ隣にいた技術者が「そんなの簡単ですよ」と言って実現した商品です。エネルギー問題も技術論から入ると落とし穴に落ちてしまうのではないかと思います。素人発想のこんな社会になったら好いなを“技術者が知恵を絞って実現する社会”が、良い社会だと思うのですが、いかがでしょうか。
- 14. コンパクトに幅広い情報提供、疑問への回答を期待します。
よく講演・説明会などでは、質疑応答で質問者 1 人あたり結構な時間がかかり

ます。中には自分の意見ばかりで「質問はなんですか」という例もごまんとあります。

ぜひ、貴重な時間の中で数多くの疑問を解消し、情報を得る機会としていただきたいと思います。

以下は私案です。

「質問は30秒から1分以内で簡潔にお話ください。多くの方に質問して頂きたいので何分も続く場合は止めさせて頂きます」とし、回答を含め1人3分以内を目安に進行。

Q : □

A : ■

このブロックを20秒として、

1	2	3分
□□□■	■	■
□□■	■	■
□■	■	■

のようなイメージで、

再質問は許容するが、1回の発言の長さ制限と、1人にかかる合計時間制限で1人がえんえんと話し続けられないようにする。

回答が長かった場合は、柔軟に。

もちろん1人が2分や1分で終わっても全然問題ない。

1	2	3分
□□□■	■	■
□□■	■	■
□□■		

とか。

この仕組みの場合、回答側にも意図を伝え、可能な範囲で簡潔に回答してもらうことが望ましい。

まあ、1人の質問者がえんえんと意見を言わない限りは柔軟でよいのですが。

これは一案ですが、なにかしら1人がえんえんと話し続けられない仕組みは欲しいと思います。

それから、電力需給については、足りている派と電力会社側が食い違う理由について、分かりやすく触れて頂きたい。

一方的な見方のみの提示だけで終わるのはあまりにもったいない。

- 15. 中部電力で勤めている人から、情報をもらい、今後の自分の動き方や社会に対する働きかけ方を考えたいです。

- 16. 事業者のデータと考えとマスコミ等による情報との差異があるのかどうか。情報の伝え方、受け取り方に偏り、差異があるのかないのか。市民が得ている情報は十分なのか、正しいのか、偏っていないのか。みなが正しく理解するにはどうすればよいか。
- 17. 現場での作業員の実態を知りたいです。どの程度、被ばくしながら作業しているのか。
- 18. ①現在のライフスタイルやビルの高層化建設の増加をみていると、原発停止、廃止の希望が国民意識として明確なのに実現可能なのかと疑問に思います。自然エネルギーや再生エネルギー、既存の発電方の総合で将来的に需要と供給のバランスは保てますか？
②先日、竜巻による被害がありました。津波、地震対策を見直し安全性を高めて業務開始へ向け動いてるようですが、今回の竜巻はレベル2位でもっとつよい5とかが来ても原子炉は破損しませんか？
仕事が繁忙期なので当日伺えないかも知れませんが、参加された皆様で現実を踏まえた上で地域にあった安全性の高い未来のエネルギー供給方を検討して頂ければ幸いです。
- 19. 原発を稼働しつづけた場合、過酷事故発生の可能性がどの程度あると評価しているか。
- 20. 今後の電力需給の見通しとそれに対応する施策。
- 21. 安全確保は当然のことであるが、天災人災に関わらず「事故は起きる」を前提に、その収束技術及び使用済み燃料の無害化技術の開発と確立に対する展望。
- 22. とくに水力発電の再評価（出力アップの可能性と問題点、家庭電力料金値上げをおさえる役割）を聞きたい。
- 23. まずはしっかりと話を聞く姿勢が大事だと思います。原発反対一辺倒で、聞く耳をもたない雰囲気にならないよう注意が必要だと思います。
- 24. 今回 初めての参加です。
環境に携わる仕事をしていることもあり、エネルギー生産者、消費者の「今」の動向を把握したいと思います。福島原発の事故以来、どのような変化が起きているのか、しっかりと見極めたいと思います。
- 25. 浜岡五号機の事故が起きた原因と再発防止策。
- 26. 今後のエネルギーの見通し、原子力に変わるエネルギーを考えられる場・話し合える場をどの様に設けていくか。

- 27. 不確かさを含む工学的限界についての原子力の考え方。
想定外に対する原子力設計の考え方。

- 28. せつかくのこれからの時代を考える機会として、なるべくたくさんの方の見地による情報提供の場であり、現実的に具体的に考えられるような（そして国内産業の活性化にも寄与するような）機会になることを期待しております。

- 29. 総合エネルギーサービス事業者としてどう発展していくのか。

- 30. 今年から社会人になり、仕事に関する情報に集中しがちになっています。しかし一市民として、原発問題やエネルギー問題には関心を持っていく必要があると思っています。

そこでもう一度これらと向き合うために、今回の会議に参加し、会場での多様な意見交換に加わりたいと思いました。

まだまだ勉強不足ですが、ここからもう一度自分の目をエネルギーの課題と未来へ向けていきます。

以上